



次に進むために

面談を進めている。今回の面談は、11月8日（水）の選択科目締め切りに向けて、文・理の確認と、それに伴う選択科目の確認であるが、朝や昼休みの10分コースに申し込んでいる諸君は、文・理もしっかり決めているし、文系の地歴2科目、理系の理科2科目に関する質問、また、午後の自由選択に関する質問にも、かなり明確に答えてくれるので、以前文・理で悩んでいる人が多いイメージを勝手に抱いていた担任としては、かなりすんなり面談が進む印象である。

一方、放課後の20分コースに申し込んだ諸君の中には、まだどうしてもやりたいことが見つからなかったり、やりたい分野と得点ができる科目が違っていたりして、どうしたらよいのか、今ひとつ決めきれないでいる人も何人かいる。

得点できる科目と好きな科目で悩んでいるなら、基本は「好きな科目」である。3年生の今ごろになると、例えば理・社はある程度時間をかけて、中高一貫生や浪人生とも対抗できるレベルに仕上げていかなければならない。毎日、その科目と長時間顔を合わせることになるのだから、好きな科目でなければやっていられないだろう。そして、やっていれば自ずと力はついてくるのであるから、成績は自然と伸びてくるはずである。現在成績が良くても、あまり好きでない科目を選択すると、結局その科目を後回しにすることになり、それが足を引っ張ることにもなりかねない。だから、基本「好きな科目」というのは、大切な観点なのである。

ちなみに、どちらも「キライ」という場合もあるだろう。その場合は仕方ない、キライ

でも自分がその科目を勉強している姿を思い描いてみて、わずかでも思い描きやすかった方を選ぶしかない。諦め？も肝心である。

自分がやりたいことがはっきりしない、つまり、どの学部を目指すのかが明確にならないという人もいるが、それだと具体的な大学選びが進まない。例えば「①この学部に進みたい→②この科目が不得意→③その科目の配点が少ない大学」といった観点で、とりあえず志望校を絞っていくことはできるのだが、①が決まらなければ文・理も決まらないし、文・理が決まっても、学部が決まらなければ、「絞っていく」という作業がなかなか難しいのである。とりあえず文・理が決まれば、選択科目を決めることまではできるが、やはり何のために勉強しているのかがはっきりしないと、力の入り方も違ってきてしまうだろう。その意味でも、11月8日を一つの区切りとして、一つの決断をすることは大切だ。ある方向性を決めてみると、逆に、それが実はあまり自分には合っていなかったということが、ハッキリ見えてくるかも知れない。つまり、一つに決めるからこそ、次のステップが見えてくるということもあるのである。

決断するのは難しい。しかし、決断しなければ次には進めない。進んでダメならやり直すだけのことである。実際に大学に進学してみると、いい意味でも悪い意味でも、想像していたのとは違うという面もたくさんあるはずだ。そして、そこから新しい世界が広がることもあるのである。あまり進路を固定的に捉えずに、とりあえず今やってみたいことにチャレンジできる学部を選んでみよう。